

アカウシアブ

通りすがりさんから、アブにもいろいろな種類があるということを知り、一度アブを調べてみたいと思っていました。検索表もあるのですが、♀用しかありません。ところが、マンションの廊下で探してみると、



Fig 1

いつもみばかり。ずっと残念に思っていました。先日、「虫展」の準備のために標本箱を整理していると、アカウシアブらしい♀の標本が見つかりました。そこで、早速、検索をしてみました。

■属への検索

まず、アブ科の属への検索です。これは、次の2つの文献に載っていました。

H. Hayakawa, "A key to the females of Japanese tabanid flies with a checklist of all species and subspecies (Diptera, Tabanidae)", Jpn. J. Sanit. Zool. 36, 15 (1985)

河合禎次、谷田 二三著、「日本産水生昆虫」(東海大学出版、2005)

前者は英語、後者は日本語です。比べてみると、内容的にはほぼ一致しました。そこで、後者の日本語の方を使うことにしました。

アブ科の属への検索

- ①触角鞭節は5環節以下からなる
- ②後脚脛節に距棘がない
- ③翅は透明かくすんでいる
- ④触角鞭節の背突起は短い
- ⑤単眼瘤がなく、複眼に微毛がない
- ⑥頭部は胸幅と同じか小さく、複眼は黒褐色～緑色である
- ⑦触角鞭節の背突起は大きい

アブ属

た。
アカウシアブはアブ属なので、その部分に至る検索表の項目を抜粋して書くと次のようになります。

それに、全体の写真と関連する各部の写真を載せます。なお、各項目に関連するところにはその項目と数字を加えてみました。

「Fig. 1」は全体の写真です。かなり大型のアブです。「Fig. 2」は触角です。かなり変わった形をしているでしょう。そして、「Fig. 3」は後脚脛節の写真です。①から説明していきます

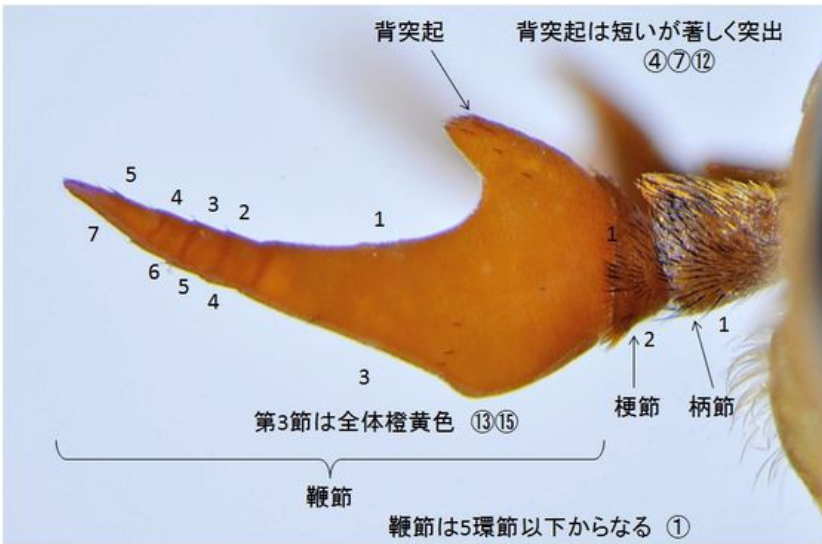


Fig 2

す。「Fig. 2」を見ると、触角は全部で7節、基部から柄節、梗節と呼び、その先を鞭節と呼んでいます。鞭節は5節からなっています。鞭節第一節を環節と呼んでよいのかはよく分かりませんが、鞭節が5環節以下であることは確かです。②は「Fig. 3」を見ると分かれますが、距棘はありません。③は



Fig 3

「Fig. 1」のようにほぼ透明です。

さらに、④は触角の背突起に関するものです。「Fig. 2」の奇妙な突起が背突起ですが、これが短いというのはもつと長いヒゲナガサシアブ属があるからです。⑤は次の写真を見てください。

単眼瘤がなくて、複眼には毛が生えていません。⑥は「Fig. 1」に示す通りです。⑦の触角鞭節の背突起が大きいというのはツナギアブ属に比べての話です。短いといったり、大きいといったり、比較対象で表現が大きくなるのでややこしいですね。でも、これでアブ属になりました。

■種への検索

次は種への検索です。これには次の論文を用いました。

早川博文、「日本産アブ科雌成虫の分類
1. アブ属ウシアブ群、アカウシアブ群及びその関連種」、東北農試研究資料 10、
35 (1990).

これは絵解きになっているので、大変見や

すい検索表です。そのうち、アカウシアブに至る部分を抜粋して書くと次のようになります。

アブ属の種への検索

- ⑧翅脈 R5 と M1 は広く開いている
- ⑨中額瘤は紡錘形でなく、下額瘤と連なる
- ⑩中額瘤は下額瘤と融合して区別できない
- ⑪翅脈 R4 に小枝がないか、あっても痕跡的である
- ⑫触角第 3 節の背突起は著しく突起する
- ⑬触角第 3 節の基部は橙黄色である
- ⑭腹背第 2 節以下には明瞭な中央三角斑がない
- ⑮触角第 3 節は全体橙黄色である

アカウシアブ群

アカウシアブ



Fig. 4

翅脈の名称は

ここでは、主に翅脈、額瘤という複眼間にある構造、それに触角第3節についての特徴を用います。まず、翅の写真を載せま

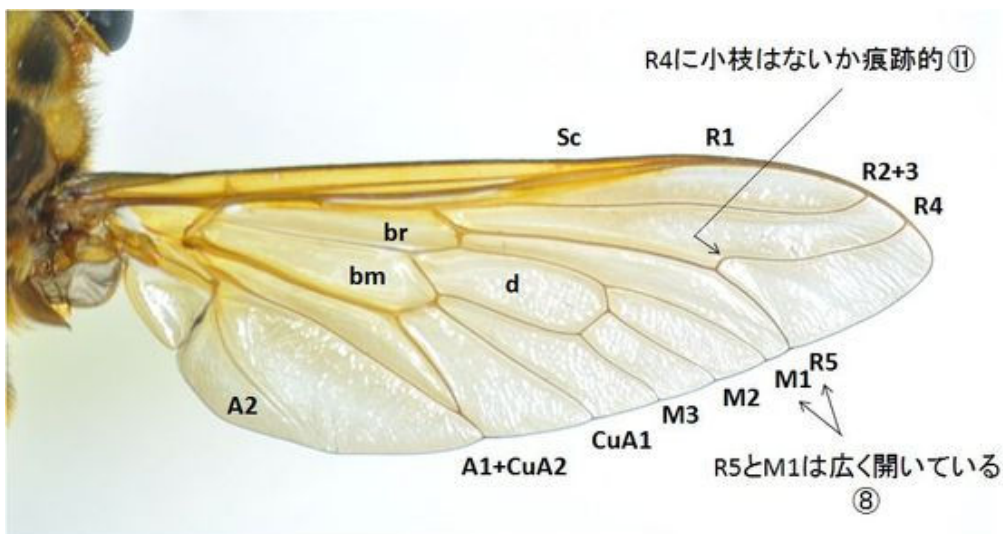


Fig. 5

Manual of Nearctic Diptera. Vol. 1 (1983). を参考にしてつけました。⑧は R5 と M1 脈

が広く開いているというのですが、対比するシロフアブ群はこの2つの脈が翅縁でほぼ一致しているのです、それに比べると広く開いているという意味です。⑨の中額瘤はFig. 4に示しましたが、実ははつきりしません。下額瘤ははつきりしているのですが、それに続く部分というので矢印を書いてみました。でも、確かではありません。いずれにしても紡錘形ではないので、OKだと思います。⑩も同じです。

⑪は Fig. 5 に示してありますが、この標本の場合、M 脈は滑らかに湾曲して翅縁に達しています。ウシアブ群などでは矢印で示した部分に小さい枝が出ます。そして、⑫はまた触角鞭節の背突起です。今度は「著しく突起する」というのですが、これも比較の問題だと思います。でも、とにかくアカウシアブ群に至りました。

⑬は触角第6節基部が橙黄色、⑭は全体が橙黄色、いずれもOKです。⑭は腹部に背側に中央三角斑がないことなのですが、Fig. 1を見ると、確かに三角斑はありません。ということとで、無事にアカウシアブになりました。

なぜ、検索が♀だけかという額瘤という複眼間の構造を使うからで、♂では複眼が接しているのでこの構造がありません。外国の論文や本を見ても、大体同じ検索表なので、これはこの世界での伝統なのでしょう。いずれにしても、アブ検索の練習ができました。これでは♀待ちです。

(追記: 次の本には♂の種への検索表も出ていました。)

H. J. Teskey, "The horse flies and deer flies of Canada and Alaska: Diptera: Tabanidae", *Insects and Arachnids of Canada Handbook Series 16* (1990).

これを参考にすれば♂の検索もできるかな)